新潟の住まいロマン

赤林伸一

□4□

住まいの価値

地域に合う室内環境

住宅に限らず建物は雨風をしのぐためだけに建てるのではなく、室内に安全で快適かつ健康な環境をつくるために建てるのです。どんなに立派な床柱を使っても、どんなに立派な設備を施しても室内につくりだされる環境が不快で危険かつ不健康であればその住まいの価値はほとんどないものといってよいでしょう。

室内の環境は図に示すさまざまな要因によって決まります。

まず第一に温度や日射などの「自然環境」が挙げられます。日本は南北に長く、中央に高い山脈がありますので、地域による自然環境のばらつきが大変大きいことが特徴です。九州や近畿地方のような温暖な地方で発達した住宅様式をそのまま北海道や東北、北陸に持ち込んでは快適な環境を得ることはできません。

「シェルター性能」は住まいの外と内を区別している壁や床、天井、窓の断熱・気密・遮音性能や、窓の配置による通風・採光性能を示しています。断熱・気密性能を向上させれば室内に快適で結露の起きにくい環境をつくりやすくなりますし、窓の配置を考慮すれば明るい風通しの良い家を造ることができます。

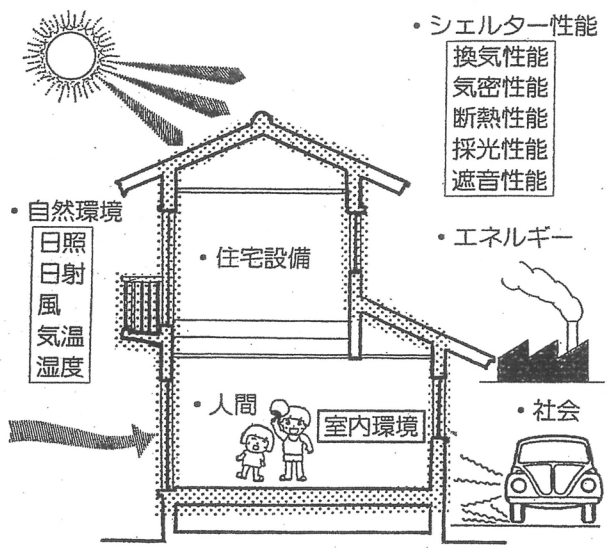
「社会」・「エネルギー」は地球の温暖化や省エネルギーなどの社会的な要請や都市化による騒音や公害などの要因です。騒音や大気汚染の激しい地域では遮音性能が高いシェルターや空気清浄機能のついた換気設備などが快適な環境をつくる上で必要になります。

「人間」は暑がり、寒がりであるとか衣服をどれくらい着ているかなどの要素で広い意味でのライフスタイルも含まれます。室温を低くしてコタツにもぐり込んで生活するのか、室温を高めに設定していすに座って生活するのか、どのような暖冷房方式なのか、寒いときだけ暖房するのか、二十四時間暖房するのかなどの生活様式もこの要素に含まれます。

住宅設備は、暖冷房給湯設備や換気設備が典型的な例ですが、これ以外にテレビや冷蔵庫などの家電製品も含まれます。

以上のさまざまな要素が複雑に絡み合って室内の環境がつくられます。そしてこれらの要素の組み合わせによって住まいの価値が決定されるのです。例えば、高断熱・高気密住宅で貧弱な換気設備しかないとすれば、室内の空気は汚染され不快で危険な環境が形成されることになります。断熱・気密化されていない住宅に二十四時間暖冷房できるセントラル空調機を設置しても、冬は上下の温度差が大きく乾燥した快適とはほど遠い環境がつくられ、夏にはびっくりするほど高い電気代の請求書がくることでしょう。

安全で快適な環境をつくるために重要なことは、シェルター性能や住宅設備などがその地域特有の気候条件にバランスし、住宅の性能に対応した住まい方をすることです。それでは、新潟ではどのような性能の住まいにどのような住まい方をすれば快適なのでしょうか。



（新潟大学工学部助教授・専門は住宅の居住環境性能評価）